

『気象庁各種警報』発令及び『南海トラフ地震』対応マニュアル

1 警報・注意報発令時

※警報・注意報の発令地区は居住地、下田市又は通学経路にあたる町とする。発令の内容や地区の範囲によって、全員が自宅待機、又は一部が自宅待機の場合がある。

警報、注意報 市町の対応 警戒レベル	対 応		
	発令時	学校の対応等	生徒の行動
特別警報発令 (暴風・大雨・洪水等) 又は 暴風警報発令 又は 避難指示 警戒レベル4 以上	登校前	授業は行わないので生徒は <u>自宅待機</u> する。または安全な場所に避難する。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>午前11時までに解除された場合</u>は、安全を確認し、直ちに登校する。ただし、伊豆急行、東海バスが不通の場合、利用者は自宅待機し、運転が再開した場合は安全を確認し、直ちに登校する。 ・<u>午前11時の時点で警報が解除されない場合</u>は、休校(家庭学習)とする。土曜講習等午前中の日程の場合は、午前7時の時点とする。
	登校後	原則として授業を中止し、 <u>生徒を下校</u> させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・下校路の安全に留意し、下校する。 ・安全に下校することが困難な生徒は、保護者と連絡を取り適切な対応をする。
大雨、洪水等の警報及び注意報発令 又は 警戒レベル3 以下	登校前	原則として <u>授業を行う。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に登校できる生徒は登校する。ただし、伊豆急行、東海バスが不通の場合、利用者は自宅待機し、運転が再開した場合は安全を確認し、直ちに登校する。
	登校後	原則として <u>授業を行う。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報や地域の実情に応じ、状況が良くならない場合は下校する場合もある。
大津波警報発令 又は 津波警報発令	登校前	授業は行わないので生徒は <u>自宅待機</u> する。または安全な場所に避難する。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>午前11時までに解除された場合</u>は、安全を確認し、直ちに登校する。ただし、伊豆急行、東海バスが不通の場合、利用者は自宅待機し、運転が再開した場合は安全を確認し、直ちに登校する。 ・<u>午前11時の時点で警報が解除されない場合</u>は、休校(家庭学習)とする。土曜講習等午前中の日程の場合は、午前7時の時点とする。 ・解除されない時点でも学校の判断で登校の指示(メール等により)をする場合有。
	登校後	原則として授業を中止し、安全確認が行われるまで、生徒は学校に待機させ、安全確認後保護者へ引き渡す。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に帰宅できることが確認されるまで学校に待機する。 ・安全に帰宅できる事が確認された後、保護者と協議した上で原則として保護者又は親類等で身元の明らかな者とともに帰宅する。

2 「南海トラフ地震臨時情報」等発表時、生徒の引渡しと待機

状 況		基 準	
地震	南海トラフ地震臨時情報	調査中	原則通常授業
		巨大地震警戒	授業を中止し、下校を開始
		巨大地震注意	原則通常授業
		調査終了	原則通常授業
	学校が所在する地域で震度5弱以上の地震が発生したとき	直ちに教育活動を中止	
学校が所在する地域で震度4以下の地震が発生したとき	通常授業、ただし、状況に応じて授業中止		

○生徒の引渡し方法と待機

震度5弱以上	原則として学校に留め置く。安全が確認できれば、保護者に引き渡す。なお、引渡しは生徒自身の保護者（家族、親戚）に限り、友人の保護者と一緒に引き渡すということはない。
震度4以下	通常授業を行う。引き渡しの場合は、震度、周辺の被害状況を確認の上、下校させる。ただし、交通機関に混乱が生じて、保護者が帰宅困難になることが予想される場合は学校で待機させ、保護者の引き取りを待つ。

※生徒引き渡し時に、立野橋付近の交差点の混雑が予想される。この場合、交通整理など必要に応じて、下記教育機関と連絡を取り対応する。

- (1) 稲生沢小学校（22-0424）
- (2) 稲生沢こども園（22-0374）

3 地震発生時の行動について

(1) 学校に居る場合の生徒の行動

- ・揺れを感じたら素早く机の下にもぐって机を盾とし、落下物や破損ガラスから身を守る。
 - ・大きな揺れが収まれば、直ちに周囲の状況を確認し、スクールコートへ避難する。
- その際、廊下にはガラスや蛍光灯の破片等で危険な箇所もあることが予想されるため、周りの状況や職員の指示に従い、怪我のないように避難をする。校舎自体は耐震性に優れているため、校舎そのものが崩れることはないという予想である。また、浸水域でもないため、迅速な避難よりも安全な避難を心掛ける。
- ※雨が長期間続いた後や雨天時の避難には、急傾斜地崩壊危険箇所内、土石流危険区域内であるため注意が必要である。校舎内が安全である場合には、スクールコートに避難せず、校舎の2階以上の出来るだけ高い所に避難するようにし、各HR教室で点呼を行う。
- ・グラウンドで活動中の場合は、まずはグラウンド中央に避難する。大きな揺れが収まったら、状況に応じてスクールコートに集合する。
 - ・負傷者を発見した際は、周囲にいる職員に報告をし、決して一人で対応しないようにする。

- ・負傷者を発見したが周囲に職員がいない場合は、負傷者の HRNO、氏名などを聞き、避難後、発見場所と負傷の程度を職員に伝える。

(2) 学校に居ない場合の生徒の行動

- ・登下校中は、下田高校、稲生沢小学校のいずれかに避難するか、家庭で定めた避難所に避難する。石垣や標識など、落ちたり崩れたりするものから出来るだけ離れ、鞆などで頭を守る
- ・電車やバスに乗っている場合や駅にいる場合は、係員の指示に従う
- ・自分の身を守ることを優先することが重要。また、周囲に学校職員をはじめとする大人がいない場合もあるため、どうするべきかを自分で考え、臨機応変に行動することを心掛ける

【全般的な確認事項】

- ① 気象状況・各種警報の確認
- ② 交通や道路情報の確認及び今後予測される情報の収集
- ③ 保護者への引き渡しの確認
- ④ 集団下校生徒の確認
- ⑤ 下校時の安全指導（自転車通学含む）
- ⑥ 下校途中で帰宅不能になった場合の対応
- ⑦ 安全に下校することが困難な生徒については、学校に待機させ保護者と連絡を取り適切な対応をする。